

徳之島伊仙町面縄第1貝塚出土人骨の風習的抜歯

Ritual Tooth Ablation of an Adult Female Skeleton from Omonawa No.1 Shell Midden, Isen, Tokunoshima

竹中正巳¹⁾・新里貴之²⁾・中村直子²⁾・新里亮人³⁾・義 憲和⁴⁾
Masami TAKENAKA¹⁾, Takayuki SHINZATO²⁾, Naoko NAKAMURA²⁾,
Akito SHINZATO³⁾ and Norikazu GI⁴⁾

はじめに

日本列島では、風習的抜歯は、縄文時代から古墳時代にかけて行われた(渡辺, 1966; 春成, 1973; 池田, 1981; 土肥・田中, 1988)。その意義としては、主に、成人、結婚、服喪など人生儀礼が考えられている。南西諸島においても、縄文から古墳時代相当期にかけて抜歯風習が存在したことが知られている。しかし、南西諸島の抜歯は、日本列島本土と対象歯が異なっていた。種子島では上顎片側の側切歯・犬歯が対象とされ、奄美以南の南西諸島では下顎の切歯が対象とされた(峰, 1992; 松下, 1993)。

また、風習的抜歯の際に偶発的事故が起こりえること、またそれらの事故により、抜歯歯槽部に破折歯根や埋入歯根が残存する例があることは、Takenakaらによって確認されている(Takenaka et al., 2001)。

今回、鹿児島県伊仙町面縄第1貝塚出土の女性壮年人骨を研究する機会に恵まれた。本人骨には風習的抜歯の対象域の歯槽部に歯牙様硬組織が認められる。この歯牙様硬組織が根尖であるのか鑑別を試み、面縄第1貝塚出土人骨に抜歯が施されたのか検討を行ったので、その結果を報告する。

資料および方法

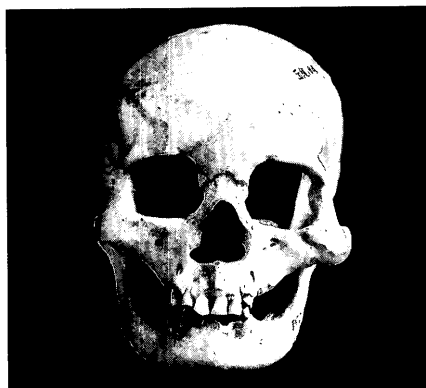
研究に用いた資料は、鹿児島県大島郡伊仙町、伊仙町立歴史民俗資料館に保管されている面縄第1貝塚出土壮年女性人骨(図1)である。本人骨に関する人類学的報告は既に松下・石田(1983)によって行われているが、風習的抜歯が施されたのか言及されていない。

¹⁾ 鹿児島女子短期大学

²⁾ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

³⁾ 鹿児島県伊仙町教育委員会

⁴⁾ 鹿児島県伊仙町立歴史民俗資料館



本人骨の歯式は次の通りである。

●●●●	4 3 2 1		1 2 3	●●●	× ×
●●●●	5 4 3 ○		●●●●	4 ●●●●	
*					

○：歯槽開放 ●：歯槽閉鎖 ×：歯槽破損

*：歯槽部に歯牙様硬組織

図1 面縄第1貝塚出土壮年女性人骨

う蝕のひどい歯が多く、生前、多くの歯を喪失している。特に上下顎臼歯部，下顎前歯部は喪失歯が多く，歯槽が閉鎖している。下顎左中切歯の歯槽中に歯牙様硬組織が確認できる（図2）。この歯牙様硬組織が歯根の根尖であるのか，肉眼観察所見とX線撮影の結果から鑑定を試みた。



図2 面縄第1貝塚出土壮年女性人骨の下顎左中切歯部歯槽（矢印：硬組織）

観察結果および考察

下顎左中切歯の歯槽縁上から約4mm下の歯槽骨表面に約1.8mmの円状の骨欠損が存在する。欠損部からは硬組織が露出している（図2）。X線撮影により，この硬組織と周囲の骨組織とは区別

され、別の組織であると考えられる(図3)。また、硬組織の下方は、決して鋭くはないが尖っており、根尖の形態としておかしくはない。



図3 面縄第1貝塚出土壮年女性人骨の下顎左中切歯部歯槽のX線写真(矢印:硬組織)

また、風習的抜歯の際に破折した残根は、歯根尖端部だけの極めて小さいものが多く、破折当初の位置から歯槽上縁の方向に押し上げられていくことが、日本の縄文人とハワイ諸島人の抜歯風習の研究から明らかにされている(島・鈴木, 1968; Pietrusewsky and Douglas, 1993; Takenaka et al., 2001)。

奄美以南の南西諸島(いわゆる南西諸島中部圏)には下顎の切歯を抜去する風習が存在する(峰, 1992; 松下, 1993)。徳之島でも、過去に、喜念原始墓、喜念クバンシャ岩陰墓から出土した人骨に下顎切歯を抜歯した人骨が4体出土している(小片ほか, 1988; 峰, 1992)。

以上の観察所見と徳之島の抜歯例を考え合わせると、本人骨の下顎左中切歯歯槽中の硬組織は、風習的抜歯が施された際に折れ残った根尖部と考えるのが妥当と思われる。

本例は、歯槽骨表面に歯牙様硬組織が露出しており、肉眼観察で気づくことができたが、風習的抜歯の際の事故により歯根が折れ残った場合、破折歯根が歯槽骨中に埋没し、肉眼では発見できないこともあるはずである。風習的抜歯の際の偶発的事故を検討するためにも、抜歯対象域の歯槽骨のX線撮影は必要であると考えられる。

引用文献

- 土肥直美・田中良之(1988)古墳時代の抜歯風習. 日本民族・文化の生成1, 六興出版, 東京, 197-215.
春成秀爾(1973)抜歯の意義(1). 考古学研究 20, 25-48.
池田次郎(1981)日本の抜歯風習. 人類学講座5, 雄山閣, 東京, 243-260.
松下孝幸(1993)沖縄県具志川島遺跡群出土の古人骨. 具志川島遺跡群(伊是名村文化財調査報告書第9集), 伊是名村教育委員会, 215-244.
松下孝幸・石田 肇(1983)鹿児島県伊仙町面縄第1貝塚出土の弥生時代人骨. 面縄第1・第2貝塚(伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)), 鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会, 51-64.
峰 和治(1992)南九州および南西諸島における風習的抜歯. 南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する

る総合的研究, 鹿児島大学法文学部, 55-58.

小片丘彦・佐熊正史・峰 和治・山本美代子 (1988) 鹿児島県伊仙町 (徳之島) 喜念クバンシャ岩陰墓出土の人骨・喜念原始墓・喜念クバンシャ遺跡・喜念クバンシャ岩陰墓 (伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)), 鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会, 50-54.

Pietrusewsky, M. and Douglas, M. T. (1993) Tooth ablation in old Hawai'i. *J. Polynesian. Soc.*102, 255-272.

島 五郎・鈴木 誠 (1968) ハワイ諸島人の抜歯について. 日本民族と南方文化, 平凡社, 東京, 41-60.

Takenaka, M., Mine, K., Tsuchimochi, K. and Shimada, K. (2001) Tooth removal during ritual tooth ablation in the Jomon period. *Bulletin of Indo-Pacific Prehistory Association* 21, 49-52.

渡辺 誠 (1966) 縄文文化における抜歯風習の研究. 古代学12, 173-201.

(2004年12月2日 受理)